

コンビニニュース速報

発行所

株式会社 流通産業新聞社

東京都千代田区内神田1-17-5

荻原ビル (〒101-0047)

電話・東京(03)3219-7070代表

URL <http://www.cvsnews.co.jp>

2016年6月23日(木)発行(第3982号) ©毎週2回 月・木発行 購読料1ヵ年48,600円・6ヵ月28,080円(送料・税込)

《主な記事》

- コンビニ各社、夏の新材「恵方巻」で需要を掘り起し・・・2
- 今年もバラエティ豊かに品揃え、8/6に向けて競争激しく
夏の消費をさらに刺激、コンビニ発の新たなトレンドへ定着狙う
- ミニストップ、インドネシア企業とのエリアFC契約を終了・・・3
- 日本FC協会、16年5月度コンビニ既存店0.3%減・・・4
- 2ヵ月ぶりマイナス、天候が影響し苦戦、昨年が高いハードルに
ローソン、「くまもと応援キャンペーン」を開催6/21から・・・5
- 県産の食材使用した商品10品目、売上げの一部を被災地へ寄付
- ファミリーマート、夏に向けサンドイッチを刷新6/21・・・6
- 使用する食パンを新たに、具材も鮮度や自然の風味活かす配合に
- サークルKサンクス、山田優さん監修の5アイテム発売・・・7
- 「シエリエドルチェ」で、パッケージも華やかな見た目に
- デイリーヤマザキ、カウンターコーヒーで夏向け新メニュー・・・7
- 「南国白くま風カフェ」発売、練乳のまろやかな甘さがマッチ
- 全国万引犯罪防止機構、平成28年度通常総会6/16・・・8
- 万引防止サミットの国内開催を計画、活動積極化へ力を結集

いに仕上げた。数量限定。税込240円。



冷凍リーチインケースにある「南国白くま風カフェ」をレジに持参して購入、カップを軽くもんで中の氷を崩したうえでカウンターのコーヒーマシン「日々カフェ」のアイスコーヒーを注ぎ、ストローなどでかき混ぜて完成だ。なおフルーツは入っていない。

カップアイスの「南国白くま」と同じ練乳を使うことで、まるやかな甘さを実現。コーヒーの味わいと絶妙にマッチしている。新メニューの投入で女性層、新規ファンの獲得を狙う。対応コーヒーマシン導入店約800店で取り扱っている。

全国万引犯罪防止機構、平成28年度通常総会6/16 万引防止サミットの国内開催を計画、活動積極化へ力を結集

全国万引犯罪防止機構は6月16日、都内で平成28年度通常総会および関連報告、記念講演を開催した。通常総会においては、平成27年度事業報告・決算のほか、今期の事業計画・予算などについて慎重に審議のうえ議決。竹花豊理事長は今後の活動においても「万引防止にかかわる様々な人が力を結集し進めていくことが重要だ」と強調、一層の団結を呼びかけた。

通常総会冒頭に登壇した竹花理事長(次頁写真)は、今期事業計画について言及。先ごろまとめた同機構の「10年の歩みと今後」に触れて、この中で「当機構は、今後、万引問題の情報の集積・分析・発信の拠点となるとともに、自ら必要な具体的対策の立案・実施部隊となることを目指していきたい。そして、これを通じて、万引問題の解決に見通しを必ず付ける決意を表明したい」としていることを受けて、「28年度事業計画はこれを具体化するものだ」と説明した。

新規事業として「万引防止サミット」の国内開催をはじめ、「盗難情報の共有化に関する2つの部会の発足」▽「ネットへの盗品流入防



止委員会の発足」▽「警察関連と小売業のリレーション強化委員会の発足準備」――などを計画。これら活動の展開に向けて、さらなる助力を求めた。

また、理事を退任する運びとなった山村秀彦氏があいさつし、「10年間、機構のお手伝いをさせていただいたが、当初は『万引は少年の一過性の犯罪』など社会の中ではマイナーな問題と捉えられていた。だがこれまでの活動によって日本でも将来にかかわる重要な問題として一部で認知されるようになってきた。理事の職は退くが今後とも万引防止へ力を尽くしていく」旨語った。

☆万引犯罪撲滅へ現状を確認、組織的犯行が深刻化

続く第2部では「事業計画の具現化に向けて」と題して小売業の現場で起きている状況を確認。第3部では「調査報告から見えてくること」を解説し、第4部は「地域社会の現状及び英国社会に学ぶこと」をテーマに講演を行なった。

第2部で日本チェーンドラッグストア協会の石田岳彦防犯・有事委員長は、ドラッグストアにおける組織的万引について説明。医薬品、化粧品、健康食品に被害が集中しているほか、ベビー用品も増加傾向にあることなどに触れ、情報の共有方法などを検証して「横の連携を強化するとともに一致団結を」と呼びかけた。

長野県警本部少年課の新井美雪課長補佐は、長野県下における万引の実態を解説。「人を対象とした対策は時間がかかる一方、環境への対策はお金が必要。人、環境、仕組みが一体となった取り組みが重要だ」と訴えた。

機構の若松修普及推進委員長が「ネット市場で起きている諸事項」

を報告。万引された商品とネットオークションに出品されたものが同じであると証明するのは困難なほか、新サービスの登場で手段が多様化・簡便化している現状を指摘した。

第3部では北海道大学の瀧川哲夫名誉教授が「万引に関する全国青少年意識調査分析報告書」から見えてくる傾向を解説、「社会的」絆が強くなることで人は社会ルールを守ることになる」などとまとめた。次いで加藤和裕調査研究委員長は「全国小売業万引被害実態調査分析報告書」を担当、より正確な被害把握、検証数値精度の向上が欠かせない旨強調した。

平塚市万引き防止推進員連絡協議会の活動や、英国における社会の安全対策と個人情報保護の両立に向けた取り組みの講演も行なった。

★意見交換会で交流活発、万引防止に向け気持ち新たに

締めくくりとなった意見交換会にも多くの関係者が出席した。全員で万引防止に向け気持ちを新たにするとともに、情報交換や近況報告を行ない、親交を深めた。

あいさつした警視庁副総監の山下史雄警視監は、「万引はかつて少年によるものだったが、近年は高齢者の犯行が問題になっており、さらに組織的背景がある犯行形態も拡大しつつある。こうした時代の変化に対応しながら、しっかりと取り組んでいきたい」と機構との連携強化を進める旨確認した。

経済産業省商務流通保安審議官の住田孝之氏は「卸し、小売業を振興する立場として、万引防止は大きな課題。ビッグデータや人工知能、コンビニのICタグなどの技術を駆使してこれまでのビジネスを変えていくとともに、万引しにくい環境を構築し、『万引は割にあわない』という認識を広めるべきだ」とした。

警察庁生活安全局生活安全企画課都市防犯対策官の成田浩司警視長は、「万引は皆さんのビジネスに大きな影響を与える重大な犯罪。来店者の顔を見てあいさつするなど、基本的な対策を続けることが大切だ。警察としても情報提供、対策についての知見を提供していく」と一層の協力を約束した。